

平成30年度 県立広島大学 学部・学科等によるFD活動（教育改善）計画書

| FD活動 実施主体 | コーディネーター 氏 名 | 日 時 | 実施場所 | 実 施 内 容 等 |
|------------------|---|---------------------------------|----------|---|
| 人間文化学部 国際文化学科 | 鄭 銀志 | 平成30年6月26日 14時50分～ 16時10分 | 1212 会議室 | <p>テーマ： 授業外学修時間の実態改善を目指した組織的な検討 I</p> <p>実施目的： 授業外学修時間の実質的な増加と授業の改善に向けて、学科として組織的な検討を試みる。</p> <p>キーワード： 授業外学修・授業外課題・学修成果</p> <p>実施内容： 学生による「授業評価アンケート集計結果」（平成27～29年の3年間）の分析結果を基に、学科専門科目のうち、成功例（学外学修時間・授業外課題提示・授業満足度が互いに高い相関を示す科目）を取り上げ、日本・東アジア・英米の3分野から学科教員3名（小川 俊輔 准教授、植村 広美 准教授、吉本和弘 教授）が実践報告を行う。 その情報を教員全員で共有した上で、意見交換を行い、授業外学修時間の改善に向けた具体的な方法を模索する。</p> |
| 人間文化学部 健康科学科 | 栢下 淳 神原 知佐子 谷本 昌太 辻 文 森脇 弘子 三浦 朗 | 未定 (前後期各1回) | 1215 会議室 | <p>テーマ： 栄養教諭養成についての組織的取り組み</p> <p>実施目的： 栄養教諭養成に関する専門家を講師として招き、学科教員による勉強会を実施し、組織的教育の実現を目指す。</p> <p>キーワード： 栄養教諭養成 組織的教育 情報共有</p> <p>実施内容： 栄養教諭養成に関する専門家を講師として招聘する。それぞれ専門の立場から下記の内容についての講演を行っていただき、その後、意見交換会を実施し、健康科学科における組織的教育の実現を目指す。</p> <p>予定講師 前期：熊谷 客員教授（栄養教諭とは？栄養教諭を目指す学生の指導について） 後期：総合教育センター 門戸 教授（教職を目指す学生の指導について、高大連携について）</p> |

| FD活動 実施主体 | コーディネーター 氏名 | 日時 | 実施場所 | 実施内容等 |
|----------------|----------------|-------------------------|---------|--|
| 経営情報学部 経営学科 | 和田 崇 | 平成30年9月 ～ 平成31年1月 | 広島キャンパス | <p>テーマ： はなし家に学ぶ話し方・伝え方</p> <p>実施目的： 本事業は、参加型学修あるいは行動型学修にかかる手法を導入しても肝心の学修者の能動性に火がつかなければ効果が乏しいし、そうした手法の導入にこだわらなくても、授業の中身が面白ければ、一方向の授業でも学修者を惹き付けられるとの認識に立ち、まずは一方向型授業でも学修者を魅了できる授業力をつけることを目的とする。</p> <p>キーワード： アナウンサー、落語家、キャビンアテンダント</p> <p>実施内容： 話すことをなりわいとし、基本的にパワーポイントも使用しないし、グループワークも実施しない「はなし家」であるアナウンサーと落語家、そして顧客等の状況やニーズを的確に把握し、適切な対応を行うキャビンアテンダントを招聘し、話し方、伝え方、顧客等の状況やニーズの感じ取り方を学ぶ。</p> <p>具体的には、まず5名のはなし家に経営学科教員が行う講義系科目の授業を参観してもらう。はなし家には各々2～3コマの授業（経営学科全教員の担当授業）を参観してもらい、参観授業後に授業担当教員に対して、それぞれの立場・経験から話し方・伝え方・感じ取り方についてコメントをしてもらう。</p> <p>次に、定例学科会議に合わせて講習会を3回開催する（10・11・12月）。各回講習会に1～3名のはなし家を招聘し、参観授業への感想・コメントを報告するとともに、話し方・伝え方・感じ取り方についてミニ講義をしてもらう。</p> <p>最後に、授業参観およびミニ講義を踏まえて、各教員が後期授業で話し方等の改善に取り組み、1月学科会議で改善状況を報告しあう。そのうえで、実施内容および実施効果をとりとまとめ、広島県高等学校教育研究・実践合同研究会やAPフォーラム等で使用する報告資料を作成する。</p> <p>（注）本事業は「平成30年度県立広島大学FD活動促進事業」の助成を受けて実施する。</p> |

| FD活動 実施主体 | コーディネーター 氏 名 | 日 時 | 実施場所 | 実 施 内 容 等 |
|------------------|---|-------------------------------------|--------------|---|
| 経営情報学部 経営情報学科 | 広谷 大助 佐々木 宣介 重丸 伸二 富田 哲治 陳 春祥 | 前期は 火曜日5限。 学科会議等不定 期に実施する。 | 講義室, 会議室等 | <p>テーマ：学修意欲の促進につなぐ初年次専門研究紹介の取組とその検証</p> |
| | | | | <p>実施目的： 経営情報学科では、平成29年度から初年次導入科目として「経営情報学研究序論」を開講した。この科目は、オムニバス方式で専任教員並びに外部講師による各分野での専門科目内容及び専門研究を分かりやすく紹介することにより、学修の方向性を明確にし、学修のモチベーションを高めることを目的としている。平成29年度は振り返りで採集した感想・関心事などを全教員間で情報を共有し、組織的な教育強化などを図った。平成30年度は、昨年度のFD取組をもとに更に発展させ、振り返りシートから得られた興味・関心・感想のテキスト情報をデータマイニング手法を用いて分析し、共起ネットワークなどの関係図を示すことにより、教員が学生からのフィードバック情報を視覚的に把握しやすくなり、今後の授業へ活かすことにつながることを期待する。</p> |
| | | | | <p>キーワード：組織的教育，データマイニング，アクティブラーニング</p> |
| | | | | <p>実施内容： 前期では毎週の火曜日5限に、各回1名の教員が1時間程度で研究紹介をし、その後、学生に対して、20～30分程度で振り返りシートを用いて、理解度の確認、今回のテーマに関する関心事、今後の学修へ活かす点などについて問う。 昨年度と今年度の振り返りで採集した学生の関心事、感想をデータマイニングという手法を用いて分析し、感想及び関心事のつながりを可視化する。分析結果をもとに学科会議等で学生からの質問、感想などを全教員間で共有するとともに、本取組の目標設定、運営方法、教員への浸透状況などを振り返り、横断的、組織的な教育強化を図る。</p> |

| FD活動 実施主体 | コーディネーター 氏 名 | 日 時 | 実施場所 | 実 施 内 容 等 |
|-----------------|-----------------|-----|--------------|---|
| 生命環境学部 生命科学科 | 五味 正志 | 未定 | 大講義室 各研究室 | テーマ：大学基礎セミナーの実施方法の改善についての検討 |
| | | | | 実施目的：コース選択及び研究室配属を意識させ、卒業研究をスムーズに開始できるようにする。 |
| | | | | キーワード：研究室訪問、質疑応答、レポート作成 |
| | | | | 実施内容： コースごとに教員が専門の内容を紹介した後に少人数で各研究室を訪問する形式で実施する。 食品資源科学コースは、教員の専門分野の説明についてノートをとって疑問点を調査する方式で、応用生命科学コースは、教員による課題の提示し、それを調査する方式である。どちらも研究室訪問の前後にレポートを提出させて、訪問時の質疑応答により学生の理解がどのように深まったのかを検証する。本年度はこれまでのアンケート調査に基づいて、基本的な方法は踏襲しながら、少し修正を加えて実施する。また、引き続きアンケート調査を実施し、今後の実施や評価の方法について、さらなる改善の検討を行う。 |
| 生命環境学部 環境科学科 | 三苦 好治 | 随時 | 庄原キャンパス | テーマ：教育プログラムに対するPDCAサイクル体制の構築 |
| | | | | 実施目的：専門教員間の意思疎通の向上と共通認識に基づくキャリア形成を見据えた教育プログラムの改善サイクルを構築する。 |
| | | | | キーワード：授業方法や評価方法の向上、キャリア形成の支援法、教育・研究の融合のモデル作り |
| | | | | 実施内容： 1) 学科内FD会の実施（授業方法／AL 定量評価／学習支援アドバイザーとの新たな連携案などについて意見交換会） 2) 持続可能な新たな行動型学修方法について案作り（資金募集／教育・研究の融合のモデル作り） 3) 作成済みの環境科学科自己評価ルーブリックを第3者が確認し、授業内容の過不足を検討する。 4) メンタル不調者への対応等について意見交換する場を設ける。 5) 就職先を具体的にイメージした環境科学科特有の授業内容（大学基礎セミナー＜先輩の就職先の仕事内容調査とそのプレゼン＞、環境科学セミナーⅠ＜全国から企業関係者を講師として招聘し、仕事内容を紹介＞、環境科学見セミナーⅡ＜地元の環境関係企業の訪問と環境関係テーマのフリーディスカッション＞など）の一層の充実を図り、その定量的な評価を目指す。 6) 授業内容作成プロセスへの学修支援アドバイザー参加を促す。 |

| FD活動 実施主体 | コーディネーター 氏 名 | 日 時 | 実施場所 | 実 施 内 容 等 |
|-----------------|-----------------|--|--|---|
| 保健福祉学部 FD委員会 | 吉川 ひろみ 細羽 竜也 | 平成 30 年 12 月～3 月 | 三原キャンパス内 | <p>テーマ：学生のヘルスサポーターマインドの育成における地域貢献事業の効果の検証</p> <p>実施目的：教育評価の対象として地域貢献事業に着目し，参加する各学科の学生への事業効果を，学生の育成の観点から評価・分析するため</p> <p>キーワード：ヘルスサポーターマインド，地域貢献事業，保健医療福祉</p> <p>実施内容：</p> <p>年間を通じて行われる保健福祉学部各学科の地域貢献事業のうち，学生が参加する事業について，平成 19 年度現代 GP で作成した評価表を用いて，学生への影響を検討するとともに，年次ごとの学生の成長にどのように反映するか検討を行う予定である。こうした検討結果を年度の終盤に FD 研修会という形で，学部内に公表・協議することを企画している。</p> |
| 保健福祉学部 看護学科 | 黒田 寿美恵 | <p>テーマⅠ： 年 1 回 (平成 30 年 4 月 20 日(金) 13:30～16:00)</p> <p>テーマⅡ： 毎月 1 回</p> | <p>テーマⅠ： 4102 会議室</p> <p>テーマⅡ： 3418 小会議室</p> | <p>テーマⅠ：教員と実習指導担当者との情報共有と教育方法の改善</p> <p>テーマⅡ：臨地実習教育の充実</p> <p>実施目的：教員と実習指導担当者間あるいは教員同士で情報交換を行い，臨地実習における学生の現状と課題を把握，共有し，円滑な臨地実習の運営と看護教育の質の向上を図る。</p> <p>キーワード：臨地実習，教育方法，情報共有</p> <p>実施内容：</p> <p>テーマⅠ：実習指導担当者協議会を開催し，情報共有とグループ討論を実施する。今年度は「臨地実習で体験できることが限定されるなかで学生の看護実践能力をどう育てていくか～教員と実習施設側との連携強化～」というテーマでグループ討論を実施する。</p> <p>テーマⅡ：臨地実習に関わる情報を教員間で共有し，学生指導や実習環境についての検討を行う。また，年間実習計画の調整および見直しを実施する。</p> |

| | | | | |
|----------------|-----------------------|-------------------------------------|-------------------|---|
| 保健福祉学部 看護学科 | FD/教育課程検討会 (岡田 淳子) | 毎月 1 回 | 3418 小会議室 | テーマ：コアとなる看護実践能力の育成に向けた教育の方向性の明確化と教育内容の充実 |
| | | | | 実施目的：看護学教育モデル・コア・カリキュラムが策定され、看護系人材として求められる基本的資質・能力が示された。また本学では、学部再編に向けて、「課題探求型地域創生人材育成」をめざした教育課程表の改定を求められている。これらを受けて、教育課程表の見直しや学生の能動的学修の活性化に向けた教育環境の整備を行う。 |
| | | | | キーワード：教育課程表の改定、学修支援アドバイザーの活用、情報共有 |
| | | | | 実施内容： 各専門領域の教員で構成し、講義・演習・実習の情報交換を行い、教育課程表が卒業時の到達目標を達成するために必要な教育内容を系統的に示しているか現状と課題を把握する。そして、本学の 3 つのポリシーとの整合性をはかり、改定すべき教育課程表の検討を行う。 学修支援アドバイザーとなった学生がその役割を認識し、活動が円滑に行われるように運用の整備を行う。 |
| 保健福祉学部 看護学科 | FD/教育課程検討会 (岡田 麻里) | 2018 年 12 月～ 2019 年 2 月で 調整予定 | 県立広島大学 三原キャンパス | テーマ：地域を主体とした多職種協働による地域包括ケアシステムの推進と課題探求型地域創生人材育成をめざした実践力・研究力・教育力の強化 |
| | | | | 実施目的：学部再編後の人材育成目標には、“地域を理解し、地域に愛着をもつ「課題探求型地域創生人材」”を掲げてあり、広島県の保健医療福祉に貢献でき、地域とのつながりを大切にできる保健・医療・福祉専門職の育成を目指している。そのために、教員の実践力・研究力・教育力において、バランスを保ち強化する。 |
| | | | | キーワード：住民を含む多職種連携、地域包括ケアシステム、課題探求型地域創生人材育成 |
| | | | | 実施内容： 地域包括ケアシステムにおける地域マネジメントの実践と人材育成や地域ケア会議の実際について、外部講師を招聘し、地域包括ケア・セミナーを開催する。本セミナーの評価を学内で共有、課題と今後の取り組みについて検討し、教員の実践・研究・教育にいかす。 |

| FD活動 実施主体 | コーディネーター 氏 名 | 日 時 | 実施場所 | 実 施 内 容 等 |
|------------------|-----------------|--|----------|--|
| 保健福祉学部 理学療法学科 | 塩川 満久 佐藤 勇太 | (前期) 毎週水曜日 4 限 (後期) 毎週水曜日 1 限 | 2416 会議室 | テーマ：「学生の動向を把握・共有する」, 「講義の形態・方向性を吟味する」, 「各教員の研究領域の紹介」 |
| | | | | 実施目的：「要支援学生の指導・援助の一貫化を図る」, 「さらなる専門教育の充実を図る」 |
| | | | | キーワード： 学生生活, 国家試験, 指定規則 |
| | | | | 実施内容： (1) 「学生の動向を把握・共有する」について 各学生の情報を共有することにより, 指導, 援助の一貫化を図る。毎週の学科会議では, 各学年のチューターから報告される。配慮が必要な学生に関しては, 各担当教員を中心として詳細な報告・情報共有をし, 協議する。臨床実習の時期には, 実習地訪問の結果なども共有する。 (2) 「講義の形態・方向性を吟味する」について さらなる専門教育の充実を図るために, 講義, 学生指導のあり方について検討する。学科会議にて, 国家試験模試の結果を共有し, 国家試験に向けた講義等に活かす。学科会議に合わせて月 1 回程, 各種教授法の実践例の紹介などを通して情報共有し, 今後の講義を吟味する。また, 指定規則改定に向けた教育プログラムの構築も実施する。 (3) 「各教員の研究領域の紹介」について 各教員の研究領域における成果を共有して研究・教育能力の向上を図る。学科会議に合わせて月 1 回程, 各教員の研究紹介などを通じて行われる。 (1) (2) (3) の内容は, 個人情報を含む学科特有の内容についての議論を要する。このため, 公開は, 内容によって判断するものとする。 |

| FD活動 実施主体 | コーディネーター 氏名 | 日時 | 実施場所 | 実施内容等 |
|-------------------------|----------------|------------------------------|------------------------------------|---|
| 保健福祉学部 作業療法学科 | 高木 雅之 | 毎月 第1・3金曜日 12:30~13:00 | 三原キャンパス 2406 会議室 | <p>テーマ：作業療法士養成教育内容の充実</p> <p>実施目的：生涯にわたり学び続ける世界基準の作業療法士の育成を目指し、学科教員が連携をとり、学生の能動的な学修をサポートできる体制を構築すると共に、教育内容の充実を図る。</p> <p>キーワード：チューター，国家試験対策，カリキュラム</p> <p>実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①チューターによる学修支援方法の検討・実施・効果検証 初年次からチューターが学生の学修状況を積極的に把握し、学修を促進していく方法を検討、実施し、その効果を検討する。 ②国家試験対策方法の検討・実施・効果検証 国家試験全員合格に向けて学科全教員がそれぞれの役割を担い、学修をサポートできる体制を構築する。学生の学修経過を追いながら、取り組みの効果を検証していく。 ③カリキュラムの改善 世界作業療法士連盟の教育最低基準や改正される厚生労働省の養成施設指定規則に沿って、カリキュラムを改善する。 ④最新の研究エビデンスの共有 作業療法関連領域における最新の研究成果を共有し、教育内容に取り入れていくと共に、各教員の研究・教育能力の向上を図る。 |
| 保健福祉学部 コミュニケーション障害学科 | 細川 淳嗣 | 原則水曜日 12:15-13:00 | 原則 三原キャンパス 1309/1310 演習 室 | <p>テーマ：年間を通じた学科での教育改善活動</p> <p>実施目的：各教員が行っている研究・教育活動について学科教員などの間で共有を行うことにより、また、各教員が実施・参加したFDに関する研修などの内容を共有することで、学生教育の質向上を目的とする。さらに、教育の成果に即したカリキュラム改善を目的として年間を通して、教育課程の改善について検討を行う。</p> <p>キーワード：教育の改善，研究活動情報共有，伝達講習</p> <p>実施内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 教員が取り組んでいる研究活動の紹介と議論 2. 教員が取り組んでいる教育改善活動の紹介と共有 3. FDに関連した学外等で実施された研修などの伝達 4. カリキュラム改善についての検討 |

| FD活動 実施主体 | コーディネーター 氏 名 | 日 時 | 実施場所 | 実 施 内 容 等 |
|------------------|-----------------|-------------------|-----------------|--|
| 保健福祉学部 人間福祉学科 | 細羽 竜也 | 平成 30 年度 授業期間中 | 三原キャンパス 内で実施 | テーマ： 社会福祉士・精神保健福祉士養成教育の内容の充実を図る |
| | | | | 実施目的： ソーシャルワーク教育における講義・演習・実習科目の質の向上を図るため |
| | | | | キーワード： ピアレビュー， ソーシャルワーク教育， 実習教育 |
| | | | | 実施内容： (1) 授業公開 平成 30 年度 5 月の学科会議で以下の取り組みを行うことが合意されている。 ① 各教員が年度中に 1 回以上， 授業公開を実施する。 ② 公開された他の教員の授業に， 年度中に 2 回以上参加し， ミニッツペーパー（授業評価）を教員に提出する。実施教員はFD 教員に提出する。 (2) ソーシャルワーク教育等の伝達研修会（人間福祉学科内） 平成 30 年度中の教育研修の参加の成果を， 学内で適宜， 伝達研修として学科教員に伝え， 各自のソーシャルワーク教育の質の向上を図る。 (3) 社会福祉実習教育におけるFD 活動促進事業の実践 「ソーシャルワーク実践に焦点化し学生の学習プロセスに配慮した社会福祉実習教育システムの構築—学習過程のモニタリングによる実習教育方法の再検討を通して—」というテーマでFD 活動促進事業に申請し， 実習教育への先駆的取り組みも実施する予定としている。 |

| FD活動 実施主体 | コーディネーター 氏 名 | 日 時 | 実施場所 | 実 施 内 容 等 |
|--------------|-----------------|-------------------|------|---|
| 全学共通教 育部門 | 本岡 直子 | 平成 30 年度 授業期間中 | 全学 | テーマ： 学修成果の把握と検証 |
| | | | | 実施目的： 試行版ルーブリックを用いて、学修状況、学修成果を把握する。 |
| | | | | キーワード： 学修成果、ルーブリック、大学基礎セミナー |
| | | | | <p>実施内容：</p> <p>平成 27 年度に導入した初年次導入科目「大学基礎セミナー」について、科目設置時の目標の達成状況と現状について検証し、さらなる改善を図る際の資料とするため、科目ルーブリックを用いた調査を行う。</p> <p>大学生活を支える基礎知識や学習方法・スキルの獲得に対して、1 年生がどのように認識しているかを把握することにより、初年次教育の在り方、およびその後続く全学共通教育を検討する。</p> |